

自然ネットだより

北九州市の豊かな生物多様性を次世代に

第98号

(2023年12月18日)

発行：北九州市環境局
環境監視課自然共生係
☎093-582-2239
協力：北九州市自然環境保全
ネットワークの会



五箇公一さんが響灘ビオトープで講演

響灘ビオトープが国の自然共生サイトに認定されたこと及び市制60周年を記念し、11月23日(木・祝)、国立環境研究所の五箇公一さんを講師に迎え、自然講演会「みんなで考えよう『生物多様性』」が響灘ビオトープで開催され、約100人の市民が参加しました。

テレビでもおなじみの黒づくめの衣装とサングラスで登壇した五箇公一さんの講演は、自身の子どもから学生時代に、生物観察、フィギアコレクション、オートバイで各地を行脚したことやその後のダニの研究などが現在の調査研究活動につながっているという自己紹介から始まりました。

私たちの生活は、水、空気や食物や原材料など生物多様性の恵みを受けていることは誰もが知っていますが、その恩恵を受け続けるためには、生物の住処となる里山、海、川や湿地など多様な生態系を守るという行動が必要となります。それが現在では、外来種の移入により生物多様性のバランスが崩れていることや自然環境への関与が希薄になっていることにより自然の質が劣化していることなど、人間活動の影響によって生物多様性が損失し、それらが巡り巡って人類の存続にも関わってくることを示唆されました。

地域ごとに進化した種・遺伝子によって固有の生態系が形成され、様々な機能が地球上に展開し、多様性が社会や文化を育んできました。北九州市は、工業都市でありながらも豊かな自然環境を有しています。生物多様性を保全することは、安全・安心かつ豊かな社会を持続させるために必要不可欠であること、生物多様性保全のために自然共生サイトが重要な役割を持っていることを改めて認識する講演会でした。

【五箇公一さんと響灘ビオトープ】

10月29日に放送されたNHK番組『1ミリ革命』において、「我が家の隣に野生生物!あなたはどどうする?」というテーマで、アライグマなど住宅地にも侵入し影響を及ぼす外来生物が特集されました。番組では、響灘ビオトープの鳥類調査協力員・岩本さんが北九州市の被害状況を報告しました。その中で専門家として五箇公一さんも出演されており、響灘ビオトープについては自然講演会の前から認識されていました。講演当日には、響灘ビオトープ園内を視察され、工場群に隣接した広大な面積の保全エリアは、五箇さんの想像を超えるものであったようで、感嘆されたのと同時に、継続して保全する必要性と管理者への激励が述べられました。



五箇公一さんの講演の様子



響灘ビオトープを視察する五箇公一さん

自然講演会【みんなで考えよう「生物多様性」】 同時開催 団体活動紹介

五箇公一さんの講演会に併せて、講演会場に隣接したスペースにおいて、北九州市自然環境保全ネットワークの会(以下、「自然ネット」)に属する団体の活動を紹介するパネルを展示しました。

出展した団体は、日本野鳥の会北九州支部、北九州高校魚部、NPO 法人環境ネットワーク(山田緑地)、NPO 法人北九州ビオトープ・ネットワーク研究会、NPO 法人 SoElA と自然ネットで、講演会参加者と響灘ビオトープ来園者が、講演会の開始前または講演会終了後に展示物を見入っていました。



エコライフステージ 2023 の報告

11月11日(土)と12日(日)、北九州市役所周辺で開催された「エコライフステージ 2023」に自然ネット及び所属団体が出展しました。

エコライフステージは、北九州地域で環境活動に取り組む市民団体、NPO、企業などが日頃の活動を発表し、市民へエコライフを提案することを目的とした西日本最大級の環境イベントです。約70の団体が、「ごみを出しません」「環境に優しいグリーン電力を使います」「食品ロスゼロに取り組めます」という3つの約束を守りながら、市民の「環境力」を発展させるような展示やワークショップを出展者を行いました。自然ネット関連団体では、自然ネットの他、NPO 法人 SoElA、日本カブトガニを守る会福岡支部、響灘ビオトープが出展しました。

自然ネットのブースでは、「生きものも人も暮らしやすいまちのために」というテーマを設け、北九州市の自然環境や自然ネット関連団体の活動について紹介するパネル展示と、自然ネット関連団体ブースや近隣施設を巡るクイズラリーを行いました。また、自然ネットレポート2022や生物多様性のパンフレットの配布も行いました。

クイズラリーは、出展していた自然ネット関連の4つのブース及び会場近隣の2施設(北九州市立水環境館、勝山公園グリーンエコハウス)を巡って合計6問のクイズに答えたり、ワークショップを体験したりすると、景品が当たる抽選ができるという形式で行いました。抽選には昔ながらの回転式のガラポンを使用しました。



自然ネットのブースの様子



NPO 法人 SoElA のブースの様子



クイズラリーに参加し、抽選する子どもたち

自然ネットに新たに加わった NPO 法人 SoElA のブースでは、地球環境カードゲーム「マイアース」の体験会が開催されました。地域特化版として新たに作られた「北九州響灘パッケージ」では、響灘ビオトープやブリヂストンなど北九州市内の施設や企業の取組がカード化されており、身近な地域の生きものや環境を守る取組について遊びながら学ぶことができ、ブースは多くの子どもたちで賑わっていました。

2日間とも天候に恵まれ、自然ネットのブースには、2日間で約500人が訪れ、たいへん賑わいました。ブース来場者からは「自然環境や生きものへの保全活動などについて大変勉強になった」、「存在を知らなかったが行ってみたいと思う場所ができた」という声も聞かれ、生きものも人も暮らしやすいまちが続くように、自然ネットの各団体の活動の継続の必要性を実感した2日間でした。



エコツアー「平尾台の秋を感じよう」の報告

10月21日(土)、「平尾台の秋を感じよう」と題し、秋の平尾台の風景と道中の自然を楽しみながら学べる散策エコツアーが開催されました。

「平尾台」は、秋吉台、四国カルストと並んで日本三大カルストの1つです。改めてカルストについて簡単に説明すると、すり鉢状の穴である「ドリーネ」、石灰岩の柱の「ピナクル」、地中の石灰岩が雨水によって溶けてできた「鍾乳洞」がある地形をいいます。平尾台で見られる、地表に裸出している石灰岩の白い岩々は、遠くから見るとまるで羊が群れているように見えることから「羊群原(ようぐんばる)」とも呼ばれています。

ツアー当日は真冬並みに冷え込んだ寒い日で、朝の集合時には電車の遅延というアクシデントもあったものの、総勢27名が充実した時間を過ごしました。現地では少人数の班に分かれ、班ごとに講師が付いて、平尾台の成り立ちや見ごろの植物などについて解説してもらいながらの山道散策となりました。道中では、深いものでは100m以上になるドリーネを上から眺め、マグマで焼かれてザラザラと結晶化している石灰岩に触れたり、珍しい白色の花を咲かせていたヤナギアザミを観察し、虫の鳴き声や風のザーという音を聞いたり、参加者は雄大な秋の平尾台を五感で楽しんでいました。

ススキ原が風になびいて銀に輝き、冷たい風も散策で温まった体には心地よい、そんな秋の平尾台ツアーでした。



白色の花の
ヤナギアザミ



講師の解説を聞く参加者

自然ネット 団体紹介

公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団

北九州市は、響灘、関門海峡、周防灘という3つの海に囲まれ、全長約200kmに及ぶ海岸線を有しています。また、「北九州市の河川」(建設局HP)によると、北九州市内には、一、二級河川を含め259の河川があり、農業水路やため池など含めると様々な種類の水辺環境があります。北九州市で1960年代に公害が発生した当時は、洞海湾は“死の海”、紫川は“黒川”と呼ばれ、生物がほとんど暮らせない状態になりましたが、産官民の努力により、魚類だけでなく、多くの生物が暮らせるようになり、多様な水辺で様々なレジャーが楽しめる環境に生まれ変わりました。



タカミヤ・マリバー環境保護シンポジウムの様子

1993(平成5)年、北九州市域内の河川環境の保全を図るとともに、水生生物の保護・育成及び河川愛護の啓発事業を行うことにより、生活環境の向上と市民福祉の増進に寄与することを目的に、財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団(以下、「マリバー財団」)が発足しました(2011(平成23)年には、公益財団法人に移行認定されています)。

マリバー財団の主な活動として、①紫川をはじめとする市域内の河川の美化活動並びに市民への啓発活動、②生態系の調査・研究、水生生物の生態調査・研究及び稚魚の放流等の実施による自然環境及び水産資源の保護育成、③河川愛護団体に助成金を交付し、水辺環境の保全、水生生物の保護・育成や河川愛護による啓発活動(通称:マリバーエド)、④環境シンポジウムや環境学習の実施、⑤公的施設への支援・協力並びに受託事業などを行っています。このうち⑤の事業においては、環境ミュージアムの指定管理者に指定され(共同事業体の構成員)、環境意識の高揚と環境人材育成に寄与しています。2023(令和5)年からは、北九州市のネーミングライツ導入により環境ミュージアムの愛称が「タカミヤ環境ミュージアム」となっています。

海や河川の自然環境も豊かなまちを支える取組として、マリバー財団の多岐に渡る貢献は、北九州市の誇りであり、改めて知っていただきたいと思えます。



自然系施設・行政機関からのお知らせ（1月～）

響灘ビオトープ

ソニドリ写真展

「四季を通じて野鳥たちの素晴らしい姿を捉えた写真」をテーマにしたフォトコンテスト※の総計 416 点の応募作品の中から、優秀作品および厳選された作品を展示

- 日時/ 1月6日（土）～21日（日）9：00～17：00
※9日と16日は休園、最終日は16時まで
- 場所/ 響灘ビオトープ（若松区響町一丁目126-1）
- 費用/ 無料



山田緑地

山田緑地 節分まつり

日本人に大事にされてきた風習のひとつ「節分」にちなんだ鬼退治イベントとともに、子どもたちが冬の昔遊びの楽しさを体験するまつりを開催。楽しく健康な体づくりをして今年一年元気に過ごそう！

- 日時/ 1月28日（日）、2月3日（土）10：00～15：00
※雨天の場合はイベント内容が変更する可能性があります

- 場所/ 山田緑地（北九州市小倉北区山田町） 詳しくは山田緑地の HP をご覧ください。



白野江植物公園

七草がゆのふるまい

一年の無病息災を願って、来園者に七草がゆをふるまいます。

- 日時/ 1月7日（日） 10：00～ 先着 50食 なくなり次第終了。雨天中止
- 場所/ 白野江植物公園の入口広場 詳しくは白野江植物公園の HP をご覧ください。



響灘緑地 グリーンパーク

樹木の手入れ講座

ツツジやマツなど具体的な樹木を例に、庭木の剪定・生垣の刈り込みなど、自宅で活用できる内容を紹介

- 日時/ 1月28日（日）10:00～12:00
- 場所/ 響灘緑地（若松区竹並 1006）
- 講師/ 松原守也
- 募集方法/電話 093-741-5545(9:00～17:00) ●募集期間/1月3日（水）9:00～
- 注意事項/ 定員 20名（定員に達し次第、申込み終了） 詳しくは響灘緑地の HP をご覧ください。



自然ネットでは、「自然ネットだより」に掲載する自然環境分野の講座・イベント情報、生物情報やその他お知らせを随時募集しています。

掲載ご希望の方や各種情報は、自然ネットの会事務局までご連絡ください。

★自然ネット事務局

〒803-8501 小倉北区城内 1-1 北九州市環境局 環境監視課 自然共生係

TEL 093-582-2239 FAX 093-582-2196 メール kan-kanshi@city.kitakyushu.lg.jp



響灘ビオトープの
公式マスコットキャラクター
「ひびちゅ」